

令和5年第1回（2月）瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の行政報告に引き続き、教育委員会から行政報告をいたします。

コロナ禍で実施する卒業式は、今年で4回目となります。今回も原則として卒業生、在校生、保護者、教職員の参加で行います。

何度もやってくる感染拡大の波を迎えるたびに、子どもたちは学校生活における困難な状況を理解し、どうやって日常生活を安全に過ごすかを考え、実践してきました。コロナ禍という状況でも、同じ学級の友達や学年を越えた仲間と知恵を出し合い、お互いを思いやる行動を生み出すたくましさとしなやかさを見せてくれました。

今後も、子どもたちが、自らの日常生活を自らの手でより豊かにしようとする生きた学びの場を守り続けていきます。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

○ 子どもたちの居場所づくりについて

今年度、教室で過ごすことに不安を抱える生徒の居場所として、全ての中学校に自立支援室を設置し、運営してきました。利用する生徒は、どの中学校にも、常に複数名おり、進学を控える小学生の保護者からも問い合わせがあると聞いています。また、適応指導教室のぞみに通室する小中学生も複数名おり、自立支援室、のぞみのどちらからも、「明日は、これをやってみたい」「4月になるころには、こんな自分になりたい」「進学する学校は、あそこに決めたから、準備をしたい」という、未来の自分を語る子どもたちの声

が聞こえています。この中にはこの春、中学校を卒業し次のステージに進む生徒たちもいます。この子どもたちにとって自立支援室やのぞみは、彼らの居場所として、なくてはならない場所であったと考えています。

しかしながら、子どもたちを取り囲む環境の複雑化や子どもたちの個性やニーズの多様化に、対応していくためには、自立支援室やのぞみだけでは困難な状況になっています。そのため、自立支援室やのぞみの体制等の充実を図るとともに、今後、家から外へ出ることができない子ども、不安を抱え続けている子どもやその保護者にも安心感と自立への支援を提供することができる教育支援センターの整備を検討していきます。

○ 社会体育施設整備について

邑久B&G海洋センター体育館は、令和4年度に外壁の改修を実施しました。令和5年度は、利用者の利便性を図るため、既存のトイレの洋式化、乾式化、段差解消や器具庫のトレーニングルームへの改修などの実施設計を行います。

令和3年度に着手した邑久スポーツ公園整備は、冒険の森改修工事において子育て世代から多くの要望があった遊戯施設やあずまやを令和5年度に整備します。また、野球場では、トイレ、ミーティングルームが完成し、令和5年度では、不陸整正、緩衝材の更新を行い、利用者のスポーツ事故防止とさらなる利用拡大に向けた整備を実施します。

牛窓グラウンドでは、老朽化したフェンスの更新、駐車場整備と併せて野球とサッカーが同時にできる規模とする、グラウンド拡張工事を行い、幅広い年齢層が野球やサッカーを始めとしたスポーツ活動に取り組めるよう努めます。

○ セーリング競技への支援について

瀬戸内市出身で岡山県セーリング連盟所属の山本佑莉（やまもとゆうり）選手は、セーリング競技のシニア、レーザーラジアル級において岡山県初のオリンピック代表選手を目指し、日々練習に取り組んでいます。

市では、セーリング競技を応援するため、ふるさと納税を活用した寄附金の受付を開始し、選手への支援体制の強化と世界で通用するトップアスリートの育成を目的とし、セーリング連盟へ補助金を交付します。

○ 公民館施設整備について

中央公民館は、市民に対する教育、文化等に関する事業を行い、社会教育の増進等に寄与する拠点施設であるとともに、災害時の指定避難所となっています。令和5年度において、既存トイレの改修やバリアフリー化、非常用電源の強化、ホール機能の改修、防災倉庫の整備などの設計業務を行い、避難所としての整備を進めていきます。

○ 竹田喜之助誕生100周年記念事業について

令和5年度の第34回喜之助人形劇フェスタは、竹田喜之助誕生100周年を記念して開催されます。全国から糸あやつり人形劇団を招致して上演すると共に、100周年にふさわしい充実した内容が検討されています。

人形劇の文化伝承事業の一環として取り組んでいる人形づくりの体験講座の受講生にとっても貴重な発表の場となり、伝統的手法を学習しながら糸あやつり人形劇文化の機運を高め、次世代へ伝承したいと考えています。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

令和5年2月21日

瀬戸内市教育委員会

教育長 東南 信行